

ホーム内にゴルフ練習室

自立高齢者向けの設備充実

大阪府の泉州地域では、自立の人も入居できる高齢者住宅の供給数はそれほど多くない。数少ない物件の一つが和泉市のサービス付き高齢者向け住宅「アネモネ」だ。ホーム内にはゴルフの練習室があるなど、アクティブシニアが生活を楽しめる仕組み・環境が整えられている。

サービス付き高齢者向け住宅アネモネ (医療法人守田会)

元病院を改修 124戸の大型物件

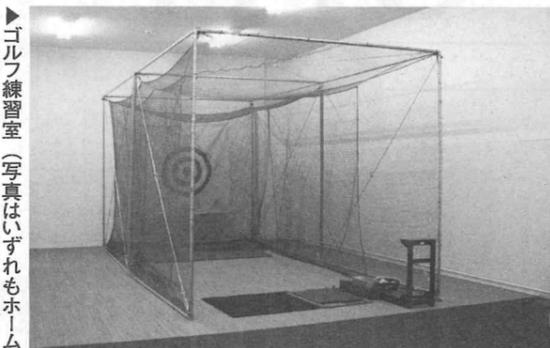
運営するのは医療法人守田会 (大阪市)。1966年に大阪市内で眼科・耳鼻咽喉科医院を開設したのがスタートで、今年が創設60年の節目の年となる。

現在、大阪市で17床の「オリーノ病院」を、和泉市で340床の「いぶきの病院」を運営している。また、大阪府で介護老人保健施設「オリーノケアセンター」も運営する。同法人ではかつて和泉市でオリーノ和泉病院を運営していたが、すぐ近くでいぶきの病院を開院することに決めた。それに合わせてオリーノ和泉病院の建物を耐震補強した上で転用して2016年4月にオープンしたのが「アネモネ」だ。総戸数は124戸で、府内のサ高住では最大級の規模だという。

60歳以上であれば身体状況を問わず誰でも入居が可能。現在の入居者のうち約3割が自立もしくは要支援1、2。自立向けの居室にはキッチンと浴室がついている。最も広いタイプの居室は64平米弱



▶自立者向けの居室



▶ゴルフ練習室 (写真はいずれもホームページより)

関西

と一般のマンションと同様の暮らしが可能。もちろん、外出や外部からの来訪・宿泊なども制限なく自由に行える。

共用部の特徴としては、入居者が無料で自由に利用できるフィットネスジムが挙げられる。広さは学校の教室2つ分ほど。入居を機にそれまで利用していた街中のフィットネスジムから切り替える人も多い。

このほか、ビリヤード、卓球台、カラオケ、ゴルフ練習室を備えており、館内で好きなだけ身体を動かすことが可能。

外国人積極活用 資格取得を支援

要介護者向けには、定員40名のデイサービス併設。

また、法人が運営する内科・循環器内科クリニックも併設されており、こちらは入居者以外も受診できる。さらに必要があれば、すぐ近くのいぶきの病院までホームの車で無料送迎も行っている。ただし看取りに関しては、いぶきの病院で行うことを想定している。

外国人積極活用 資格取得を支援

また、外国人介護人材は6年前の採用を開始しており、現在、技能実習生20名・特定技能10名の合計30名が在籍している。国籍別ではベトナムが27名、

り、ホームでは対応していない。

同法人では今後、力を入れていきたいこととして「地域に向けたリハビリテーションの充実」と「外国人介護人材の積極的な活用」の2点を掲げている。

また、外国人介護人材は6年前の採用を開始しており、現在、技能実習生20名・特定技能10名の合計30名が在籍している。国籍別ではベトナムが27名、

ミャンマーが3名だが、今後はネパールやカンボジアなど対象国を拡大することも検討する。

将来、外国人スタッフが管理者や施設長などの職務も担える体制づくりも進めている。具体的には、大阪府が実施している介護福祉士実務者研修受講費用の貸付制度について、実際に補助が行われるまでの間は、法人が費用を立て替えて資格取得を支援している。この制度を活用するなどして、これまでに2名の外国人スタッフが介護福祉士国家試験に合格している。

また、外国人介護人材は6年前の採用を開始しており、現在、技能実習生20名・特定技能10名の合計30名が在籍している。国籍別ではベトナムが27名、

運営は医療法人 診療所併設 地域に向けたリハビリ強化

修了者には「地域トラベルサポーター認定証」を発行。修了後は、同社が運営するバリアフリー旅行にボランティアとして同行する機会などを通じて、専門性の維持・向上などが図れる仕組みを提供する。

1回目の講座となる東京会場の日程は、4月4日・5日・11日・12日の4日間。会場は東京都新宿区の同社関連本社。受講料は3万5000円 (税別)。3月末まで受講申し込みを受け付けるが定員(6名)に達し次第締め切り。

介護旅行を担う人材養成

東京など各地で研修開催

日本介護システム

バリアフリー旅行など各種介護保険外サービスを手掛ける日本介護システム (大阪市) は、介護・医療専門職を対象にした人材育成

プログラム「地域トラベルサポーター養成講座 & 手引き介助ボランティア研修2026」を開催。今年4月より、東京、大阪、名古屋、札幌などの全国各地で実施する。

受講可能なのは介護福祉士、介護職員初任者研修修了者及び看護師 (介護ができること)。

訪問看護事業所向けシステムの開発・販売などを手掛けるeWell (大阪市) は、訪問看護向け経営分析ツール「iBowボード」の提供を2月より開始した。

同社の訪問看護専用電子カルテ「iBow

訪看の経営状況可視化 6つの指標 自動でグラフに

eWell



中野剛人 社長

に入力された日々の看護記録の中から、訪問記録件数やレセプト売上、利用者継続率など経営に必要な6つの指標をグラフ化する。

同社では「訪問看護事業経営者は看護師であることが多く、臨床経験は豊富だが財務やマーケティングは不慣れという課題がある。実績データを可視化することで、論理的に正しい経営判断を行うことが可能になる」とコメントする。

“声”で介護が変わる

アレクサを使った高齢者見守りサービス

ボイス☆!

個人を尊重したケアの実現

家族からの信頼と安心

職員の負担軽減

大手介護事業者様にてご採用中